

第12回 武蔵野市男女共同参画推進委員会会議要録

日 時	平成 25 年 9 月 26 日（木） 午後 7 時～9 時
場 所	武蔵野スイングホール 10 階スカイルーム 1
出席者 (敬称 略)	委 員・・・阿部敏哉、伊藤隆子、小川拓哉、栗原毅、権丈英子（委員長）、 竹内寿恵子、長尾亮、野田順子、原利子、二子石薫、松井滋樹 事務局・・・市民活動推進課男女共同参画担当職員 傍 聴・・・2名
議 題	1 第 11 回会議要録の確認について 2 第三次計画に向けた委員会報告書(案)について ・第 1 章 基本的な考え方について ・基本目標毎の施策・事業計画について ・数値目標について 3 次回の日程確認について 第 13 回委員会 日時：10 月 21 日（月）午後 7 時～9 時 会場：武蔵野プレイス 3F スペース C
議 事 要 旨	1 第 11 回会議要録の確認について <事務局> ■ 第 11 回会議要録について、修正があれば委員会後 1 週間の中に連絡いただきたい。 2 第三次計画に向けた委員会報告書(案)について ・第 1 章 基本的な考え方について <事務局> ■ 資料 2-2 を基に、基本的な考え方について説明した。 <委員> ■ 基本理念は、「男女」「対等」という文言が入っている 2 案がいいと思う。「男女」「対等」を踏まえて話し合いもされ、同意も得ているのではないかと思う。 <委員> ■ 私も 2 案のほうがいいと思うが、「自分らしい生き方ができる」というのが、「生き方」だけではなく「働き方」もあったほうがよいのではないかと思う。まだ生き方の中の働き方の不平等性が強いと考えている。 <委員> ■ 要は「社会の対等な構成員として認め合い」を入れるかどうかだけの問題だと思う。「対等」というと、対立しているイメージがある。あえて「対等」と入れる意味があるのかどうか明らかにできればいいのではないだろうか。 <委員> ■ 女性差別撤廃条約の批准から男女共同参画社会という歴史的な部分がある。また「対

等」という言葉を広辞苑で見ると、優劣や高下がないことを言う。「対等」という言葉を使うということは、男女に優劣や高下があり、それをなくしていきたいという趣旨がある。確かに「対等」という言葉はやわらかい言葉ではないと思う。ただ、現実にもそういう状況があるため、「対等」は必要だと思う。

<委員>

■ 人権の中には人間が生まれながら持っている平等権や自由権がある。「対等」を広辞苑で調べると、優劣・高下の差がないこと、互いの実力について差がないことある。現実社会には優劣や高下が実際に存在しており、あえて「人権」という言葉を先に持ってきて、それを尊重し、「対等」というところを認め合うというようなことを入れたほうがいいのではないかと思う。

<委員>

■ 「性にに基づく差別をなくし」という言葉を入れないということであれば、男女間の優劣や高下というような差別をなくすということをはっきり言うために、「対等」という言葉を入れたほうがいいのではないかと思う。

<事務局>

■ 人権と能力の尊重や自分らしい生き方ができるというのは、内容としては対等や平等を追求するという意味合いも含めて考えている。市民に分かりやすいということも加味してシンプルにあらわしたのが1案になっている。

<委員>

■ 確かに、市民の誰もがわかりやすいというフレーズも必要かと思うが、まずは問題意識を持ってもらうということで、あえて「対等」と入れるのはどうか。理解してもらう前に、どういう問題があるのかという意識をそこで持っていただく。

<委員>

■ 確かに「対等」という言葉は強いと思うが、その言葉を意識するということがとても大事ではないだろうか。「男女が人権を尊重し」を先に持ってくることについては良いと思う。ただ、まだ「対等」を盛り込まなければいけない社会の状況があるため、それを意識するということは大事ではないかと思う。

<委員>

■ これは武蔵野市の計画であるため、社会の状況ではなく、武蔵野市の状況で考える必要があると思う。今の武蔵野市の現状がどうであって、解決すべき問題がこうであるから、こういう計画を立てているんだということだと思う。武蔵野市自体が、アンケートを見てもまだまだ男女の差別感があるというような分析のもとで「対等」と入れるのであれば、賛成である。そういう考え方をしたほうがいいのではないかと思う。

<委員>

■ 基本理念は、この計画の一番最初にくる。基本理念が2案のままだと、武蔵野市は現状として相当男女不平等な社会で問題なのではないかというメッセージに受け取られ

るのではないだろうか。基本理念が一番大事であり、市民がわかりやすく、ある程度問題意識を持たせる、それで説得力のあるものが望ましいと思う。

<委員>

■ 基本視点のほうは、第二次計画も含めて、これまでの意見の中に「協働」という言葉がある。「連携」と「協働」は違うと思う。これからの男女共同参画社会をつくっていく上で、いろんな事業体が力を出し合うことでより一層効果のある男女共同参画社会づくりが進められる。そのためにこの計画をつくるのだということだと思うので、「協働」は入れておく必要があるのではないかと思う。

<委員>

■ 「地域生活に関わる人や組織」のところだが、例えば武蔵野市で働いている人、住んでいない人に対しては、これは関係していないのだろうか。武蔵野市に昼間の人口としていらっしゃる方たちを入れようとしたときに、この表現でカバーできるのだろうか。

<事務局>

■ 市内にある事業所に対しても連携や協働をやっていきたいので、「組織」の中に事業所を含めて考えている。個別に何か列挙するというよりも、包括した表現にしている。この文言は、この計画の上位計画になる長期計画の重点施策のところ「地域リハビリテーションの推進」の説明文があり、「地域生活に関わる人や組織が、保健・医療・福祉・教育などの分野を超えて連携し、」という言葉から引用している。

<委員>

■ 「あらゆる人や組織が」でいいのではないか。「各分野を超えて連携し」というのは、地域に関わる人なのか。

<委員>

■ 市のいろんな文章を見て、はっきりとわからないと思うことがよくあった。わかりやすい言葉を並べる等の言葉の使い方は大事だと思う。何となくこんな感じで書きましたのでみんなそれぞれで受け取ってくださいということでは、言いたいことが伝わらないのではないだろうか。

<委員>

■ 列挙した場合に、漏れる可能性がある。そうすると、たくさん連ねなくてはいけない。この基本視点というところで長々と連ねるのはどうかと思う。そういう意味ではまとめて全ての人たちを含むというほうがよいのではないだろうか。

<委員>

■ 検証というのは具体的にはどういうことをやるつもりなのか、これだとよくわからない。「検証を通じて、成果を共有する」だと、具体的にどういうことをして、どういうふうになるのかがわかりにくいと思った。

<事務局>

■ 理念や視点というのは、いろんな取り組みの総体的なところをまとめて書くものだ

と思っている。具体的なものは各目標や事業計画の中で示している。検証については、事業ごとに毎年点検をし、推進状況調査報告書としてまとめている。新しく設置する推進委員会に提出して、事業がどう進んだかというのを具体的に検証していただく。

<委員>

■ 「実効性のあるプランづくりと検証を通じて、成果を共有する」というよりは、今度の立場から言えば、「実効性のあるプランをつくり、成果を検証する」ということでどうか。

・基本目標毎の施策・事業計画について

<事務局>

■ 資料2-1を基に、基本目標毎の施策・事業計画について説明した。

<委員>

■ むさしのヒューマン・ネットワークセンターの経過のところは、市民ボランティアに管理運営を委託してきた。そして専門スタッフを配置し、市直営化を行った。長い間培ってきた協働の考え方を引き継ぎながら男女共同参画の推進拠点としてという方が、正しく、かつ、流れがいいと思う。

<委員長>

■ 「計画策定の背景」のところは、時系列で年表風に書いてあるが、項目ごとにまとめるというやり方もある。年表は参考資料として掲載するので、できれば内容のまとまりごとに書いた方がよいだろう。また、HDIとGGIは、国連開発計画と世界経済フォーラムという異なる機関が発表した指標である。説明の中で、これらの機関名を明記してほしい。また、男女間の格差を示す指標として、GGIだけでなく、国連開発計画のGIIも入れたほうがよいと思う。

「基本目標I 男女共同参画の意識づくり」について、「現状と課題」のところは、市民意識調査から始めているが、ヒューマン・ネットワークセンターから始めてはどうか。現状の取組み、実態を述べた後、意識調査などから見える改善点に触れ、最後に求められることを書くというような流れを作るとよい。

各基本目標の「現状と課題」において、重点項目の説明を加えてはどうか。第1章で重点項目を示した。重点的に取り組むには何か理由があるはずなので、それが伝わるように書くとわかりやすい。

<委員>

■ 基本施策5の「男性の家庭、地域活動への参画推進」のところ、地域に関わるというのは、コミュニティそのものと言ってもいいかもしれない。そこに男性もどう関わっていくのかというようなことが重要な課題となってくるのではないかと思う。例えば男性の地域参加のようなことを事業として起こしたところに対して、いろんな形での支援が行えないのかと思っている。その点について、男性の地域活動への参画推進という

テーマが挙がっているため、その中に表現できないだろうか。

<事務局>

■ 趣旨は理解しており、その通りだと思う。例えば、地域支援課では、社会福祉協議会を通じて「お父さんお帰りのパーティー」という事業を推進するという事でわかりやすいのだが、市民活動推進課が男性参加の事業をどのように取り組むのかというのが見えないため、アイデアがあればいただきたい。

<委員>

■ 吉祥寺東町コミュニティセンターでは、退職した方が入ってくると、次の呼び水にしようということがあるため、そういう事例のようなものが研連等から出てくると、そういう活動を目標としてやってもらうということは可能かと思う。

<委員>

■ 具体的にこういう事業をするというよりは、おのこのコミュニティセンターがそれぞれのスタンスで取り組んでいるなかで、このコミュニティセンターは男性の地域活動参加に向けてこういう取り組みをしており、その結果、今年度はどのぐらいのお父さんのコミュニティへの関わりがあったというような個別性のある取り組みに対して、どういう支援を入れていけばもっとそれが活性化するのかということを考えていくというのはどうか。

<事務局>

■ コミュニティセンターを中心としたコミュニティづくりにおいて、自主三原則があるので、どこまでできるかが難しいと思う。

<委員>

■ 自主三原則を上段に構え過ぎないほうがいいと思う。もっと男性の地域参加を促すようなことをやろうということに対して問題はないと思う。コミュニティ協議会やコミュニティセンターというのが参加のツールだということがこの計画に言葉として出てきていない。そういう参加の仕方もあるということ載せてもいいのではないだろうか。

<委員>

■ 21 ページの子育てのところ、「待機児童ゼロに向け多様な主体による多様な保育サービスの整備を図る」と書いてあるが、実際武蔵野市の待機児童の状況について何も書いていない。4月1日現在の待機児童の年次推移みたいなものをここに表かグラフでも入れたらわかりやすいのではないかと思う。

<委員>

■ 難しいのは、10年後は子どもの絶対数が確実に減っていくということであると思う。施設を増やして、その後使われなくなると困るので、この5年間は工夫が必要になる。

<事務局>

■ ある小学校では、子どもの数が一時的に増えているが、ピークが5～6年と見込んで、校舎の増築も次に活用できることも含めて対応している。それと同じように、保育

園についても多様なニーズに対し、多様な供給源をつくってやっていこうというのがここに書いてある表現である。

<委員>

■ 待機児童ゼロに向けて最重要施策として考えているならば、文章量的に少ないのではないかと思う。

<事務局>

■ 具体的な記述をしないで「多様な主体による多様な保育サービス」としている。多様な保育サービスについては、認可保育園やスマート保育園、保育ママ等たくさんある。それを全部列挙しないで、「多様な保育サービス」と表記している。市全体としての重点課題にも待機児童ゼロというのがうたわれており、子どもプランの中で着実に実施していくものと思う。ただ、この男女共同参画計画の中で、保育サービス政策を全部列挙するわけにとってもいかない。

<委員>

■ 9月15日の市報で、すくすくスタート事業というのが試行されると書いてあった。ここには入れなくていいものなのかどうか。

<事務局>

■ すくすくスタート事業というのが、昔言っていたマイ保育園制度の名前が変わったもので、子育て支援の一つである。事業名としては出ていないが、孤立しがちな子育て家庭への支援や認可保育園の取組みになるとおもうので、「すくすくスタート事業など」ということで例示したいと思う。

<委員>

■ 表記としてはこう書いてあるけど、内容はいろいろあるわけである。その内容についてはどこを見ればわかるのかが見ただけではわからない。索引のようなものがあるといいと思う。

<事務局>

■ トピックス風なものを検討したいと思う。

<委員長>

■ 「DVの未然防止と被害者支援」のところで、「市町村基本計画に位置づける必要があります」とあるが、この点については、委員会が位置づけてくださいと言っているわけではないので表現を変える必要があるだろう。

<委員>

■ 27 ページの1行目の暴力の説明で「言葉による精神的な暴力」と書いてある。「心理的暴力」という言葉のほうが一般的に使われているので、「心理的」のほうが適切ではないかと思う。

<委員>

■ 27 ページのデートDVのところで、「他者に対する好意が芽生え」と書いてあるが、

一般的には「異性に対する好意が芽生え」ということではないかと思う。マイノリティの方は少し違う部分があるかもしれないが、ここは「異性」というふうに書いたほうがよいのではないかと思う。

計画の進捗状況をどう検証していくのかという点について、現状は市の職員がそれぞれ担当している内容について検証しているものである。一般的には、やっている人が自分で検証するという部分ももちろんあって当然だと思うが、外の人が検証する仕組みを用意するのがいいのではないかと思う。そこで推進委員会が、その役割を担う必要があるのではないかと思う。そうすると、推進委員会が年に4回で足りるのかという話も出てくるかと思うが、そういう仕組みをどこかに準備しておかないと十分ではないのではないかと思う。いろんな役割をこの委員会が担えるような仕組みがあるといいと思う。

・数値目標について

<委員>

■ 次世代法の「くるみん」マーク取得の事業者というのを提案させていただいたが、その後検討していただいたか。

<事務局>

■ 表記から漏れており、申し訳ございません。

また、委員の皆様からのご意見や資料をトピックスというような形で掲載できたらと思っている。ご意見があればお願いしたい。

<委員長>

■ これまで議論を重ねてきたが、報告書に書き切れていない意見などもある。そのうち、後の議論の参考になりそうなことについては、トピックスとして取り上げるとよいだろう。そのひとつとして、むさしのヒューマン・ネットワークセンターについて掲載してはどうか。

<委員>

■ 15 ページの現状と課題の中で、「市民意識調査でみられるように、ワーク・ライフ・バランスに関する理想と現実のギャップ」というのは、特に女性にとっての労働時間の長さで5時切り上げができないということだと思うが、それがどこかに反映されるといいと思う。正直言って、図表まで見て、読み取られる方ばかりではないと思うので、それぞれの図表について一言ずつ本文の中に説明があるといいと思う。16 ページの労働力率の図表を武蔵野市と東京都と国で、男性の分、女性の分というようにつくっていくのはどうか。

<事務局>

■ 国と都と市の比較等2枚の図表で検討する。

<委員>

■ 「対等な」という言葉の話に戻るが、この「対等な」という言葉があると、読んだ

人がいい意味でハッとするとと思う。「対等」って、どういうことで、今は対等ではないのか、あるいは、確かに対等ではないと思うこともあるかもしれない。自分の今の生活を振り返る上で非常に意味のある言葉だと思う。この計画を読んでいただく人がそこから何かを感じたり、振り返ったりするキーワードになるのではないかと思う。

<事務局>

■ 1案と2案との共通に「男女共同参画のまちづくり」としているが、「武蔵野のまちづくり」としてはどうかという意見もあったが、どちらがいいだろうか。

また、基本目標の表現についても、「男女平等の意識づくり」や「ワーク・ライフ・バランスの推進」というストレートな表題にしているが、基本目標もまちづくりで揃えて資料を作成した。理念、視点と合わせて基本目標のところの表現についてもご検討いただきたい。

<委員長>

■ 基本目標Ⅳは、推進体制の整備に関わることなので、これを「男女共同参画社会の実現をめざす」と表現してしまうと、範囲が広くなり意図が伝わらない。もう少し適切な表現を工夫したい。

<委員>

■ 基本目標4については、「まち」でそろえなくても、上の3つを実現させるということで、「男女共同参画社会を実現させるために」というような表現ではどうか。

<委員>

■ 基本目標3の「男女平等を阻む暴力」の「男女平等」が気になる。暴力には、男性への暴力もある。また、子どもあるいは高齢者への暴力もある。弱い方たちに対するパワーが向くのが暴力であるから、「男女平等」と書いてしまうと、表せないのではないかと思う。「暴力」とただ書いがほうが括れるのではないかと思う。

<委員>

■ 基本目標3は、「男女平等を阻む」のかわりに、「あらゆる暴力を許さないまち」のほうがいいのではないかと思う。

<委員>

■ 基本目標1の「とらわれず」という表現よりは、性別意識に縛られずという表現の方がいいのではないだろうか。性別意識というのはあり、男性は男性、女性は女性と意識すると思うが、そう意識したことで自分の生き方が縛られたり制限されたりすることがおかしいということだと思っている。

<委員>

■ 性別役割分担意識で、女の人が家事・育児、男の人が仕事みたいなものはまだまだある。その意識をどう変えていくかということがとても大きい。意識というだけではなく、役割分担の分業的な部分が日本が抱えている大きな男女問題の一つだと思う。意識だけという表現はどうかかなと思う。

<委員長>

■ 基本目標1では、意識にアプローチし、意識を変えていくための施策を挙げている。

<委員>

■ 役割分担というところが、基本目標2のほうのワーク・ライフ・バランスのところ
で言えるのではないかと思う。性別意識は誰でも持っていると思うが、まずあるという
ことを自覚し、その上でそこから解放されていく、縛られない、とらわれないというよ
うな内容の文章がいいのではないかと思う。

<委員>

■ 「なくした」というと、解放や自由などとは異なると思う。また、「固定的」という
のは、何が固定的かといったときに、既成概念を持っているということだと思う。

3 今後の日程確認について

<事務局>

■ この報告書の修正意見、特に理念や基本目標の表現のところについて、10月4日ま
でにご意見をいただきたい。第13回最終の委員会終了後、調整等を行った上で、10月
下旬に報告書の提出ということで、委員長、副委員長を中心にご都合の良い委員の皆さ
んにおいでいただき、市長に報告書を提出していただくことになる。

その後、11月中旬に庁内の推進会議で市の計画案を作成し、12月11日の市議会総務
委員会に市計画案とパブリックコメントの実施も合わせて報告する。12月中旬にパブリ
ックコメントを実施し、その意見を反映させて市として計画決定する。2月3日市議会
総務委員会で計画の報告を行う予定である。

また、周知については、計画の概要版をつくり関係者へ配布する。また、市報や『ま
なこ』を使って報告する。男女共同参画週間事業の際に何らかの形で計画についてお知
らせできればと思っている。

来年の9月頃に男女共同参画推進委員会を改めて設置し、この計画の進捗管理等を行
っていきたいと思う。

—了—

次回

- ・日時：平成25年10月21日（月）午後7時から9時
- ・会場：武蔵野プレイス スペースC